国土交通省

「白鳥大橋のインフラツーリズムの取組」

【地域の現状と課題】

インフラツーリズムの進展

- 国土交通省ではインフラツーリズムを推進しており、室蘭市には地域で愛される北日本最大の吊り橋「白鳥大橋」がある。

「稼ぐ観光」の推進

- 平成30年10月に、白鳥大橋開通20周年記念シンポジウムが開催された。
- 令和4年、室蘭市は、開港150年、市制施行100年を迎えた。
- 国土交通省ではインフラについてより魅力ある観光資源として民間や地域と連携、さらには周辺の観光資源等と結びつけて、より一層の地域活性化を図ることがインフラツーリズムのあるべき姿としている。
- 周辺には洞爺湖や有珠山、登別温泉で有名な支笏洞爺国立公園等があり、室蘭は通過型の観光となっている。観光客自体はいるものの、トイレ休憩等で立ち寄り、その後、目的地に移動するという利用が多く、観光客による観光消費が少ない。室蘭に滞在してもらい、観光消費を促すコンテンツが必要だった。「地域が稼ぐ観光」の推進。

▼協定締結式

【取組に至る経緯】

平成30年10月

- 白鳥大橋開通20周年記念シンポジウムを開催。
- 室蘭開発建設部が実施していた白鳥大橋の見学を軸としたインフラツーリズムについて、室蘭市から「稼ぐ観光」の推進に資する事業の一環として、地元の手による実施が提案された。

令和元年9月～10月

- 「インフラわくわくツアー」を実施した。

令和元年11月

- 跡見学園女子大学篠原准教授、国土交通省公共事業企画調整課等が来蘭し、「インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト」のモデル地区への応募について助言を受けた。
- 以後、室蘭市、室蘭開発建設部に加え、地域の観光従事者等を含めた実施体制の検討を開始した。

令和2年2月

- 室蘭観光推進連絡会議（室蘭市、（一社）室蘭観光協会、室蘭商工会議所で構成）が実施主体となることが決定された。

令和2年3月

- 「室蘭市観光振興計画」に「白鳥大橋インフラツーリズムの推進」が明記された。
- 室蘭観光推進連絡会議総会において「白鳥大橋を活用したインフラツーリズム」を推進することが承認された。

令和2年8月

- 「インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト」のモデル地区として白鳥大橋が選定された。
- 以後、白鳥大橋の施設を活用した企画や室蘭市及び周辺地域の観光資源との周遊などを組み合わせたツアー造成等について検討を開始した。

令和3年6月

- 室蘭観光推進連絡会議と室蘭開発建設部で「白鳥大橋インフラツーリズムによるツアー催行における道路施設利用に関する協定」を締結した。
- 現在は室蘭観光推進連絡会議が実施主体となり、「白鳥大橋主塔登頂クルーズ」を実施している。北海道開発局の直轄管理施設で初めて、インフラツーリズムの自走化を果たした。

国土交通省

「白鳥大橋のインフラツーリズムの取組」

【具体的な取組内容】

室蘭開発建設部の関わり

➢ **国土交通省が推進する「インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト」のモデル地区として白鳥大橋が選定されたことを受け、白鳥大橋の施設を活用した企画や室蘭市及び周辺地域の観光資源との周遊などを組み合わせたツアー造成等（白鳥大橋主塔登頂クルーズ）についての検討を進めてきた。**

- このクルーズは、養成講座を受講した市民ガイドの方や、室蘭港内を案内して橋の築島へ案内する船会社の方々、また安全を保つ開発局職員及び委託業者の方々など多くの人々によって運営されている。
- 室蘭開発建設部では、協定締結やガイド研修、清掃活動、広報活動等の支援をしているほか、本局開発連携推進課と連携し、現地協議会のほか、シンポジウムを開催するなど「インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト」を推進している。

その他、地域での活動

- 本取組を広く知ってもらう必要があると考えており、チラシを作成して配布する等、**室蘭観光推進連絡会議や室蘭市単独でも、プロモーション活動を行っている。**
- 道内外に関わらず、**広くPRする必要がある**と考えており、例えば、北海道観光振興機構が**他県で実施するプロモーションに参加し、ショッピングモール等での一般向けのPRや、メディアや旅行会社への個別訪問**も行っている。
- ツアーでは、船に乗るため、ライフジャケットの着用や、主塔に登る際のヘルメットの着用、また、主塔下に国道が通っていることを考慮し、スマホ落下を防ぐため、ストラップの着用をお願いしている。
- 冬季は、積雪で氷が付着する可能性があり、主塔へ登った際、参加者の方々が氷を触ってしまい、氷が国道に落下する危険性もあることから、4～11月の運営に制限している。
- 主塔は2基あり、取組当初は1基のみ整備していたが、風向きによっては、1つの主塔は難しいが、もう一方の主塔は問題ない、という場合があるため、運航会社協力のもと、昨年、両方の主塔にアクセスできるように整備した。

▼インフラツーリズムの本格実施に向けて検討

モニターツアー

現地協議会

ワーキング

▼白鳥大橋主塔登頂クルーズ

築島への上陸

主塔からの絶景パノラマ

参加者の様子

▼ガイド研修

▼清掃活動

国土交通省

「白鳥大橋のインフラツーリズムの取組」

【取組の効果】

- 実施主体が地元になったことにより、自由に収益活動ができるコンテンツとなった。地域のインフラを活用し、「稼ぐ観光」に繋げることができるようになった。
- インフラツーリズムの目的の一つでもある、インフラと事業への理解促進に繋がった。
- ツアーに参加された方から「普段は入れないところに入れる優越感がある」「100mの高さからの景色は絶景」「高い場所が強くないけど、思ったより怖くない」「こんなに噴火湾がぐるっと見渡せると思ってなかった」等の声をいただいている。また「橋ってこうなってるんだ」というインフラの構造に感嘆する声もいただいた。
- マスコミの関心も高く、テレビ・ラジオ、新聞等で何度も紹介されている。

【今後の方向性】

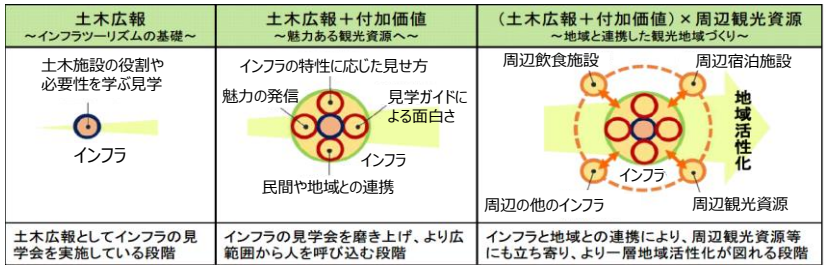
- 室蘭市の「稼ぐ観光」に繋がる具体的な方策を検討していく。
- 登別温泉や洞爺湖温泉、ウポポイ、縄文遺跡群等、様々な周辺施設との連携も検討する。

▼テレビや雑誌等、マスコミによる紹介

テレビの取材

雑誌の掲載

▼インフラツーリズム"を活用した地域活性化へのイメージ



地域における関係者の声

- **滞在型コンテンツがないことが課題だったため、白鳥大橋主塔登頂クルーズというコンテンツができたこと自体が、大きな効果**である。
- 参加者からは、**「普段は入れない場所を見学することができ、特別感がある」「船に乗ること自体が、アドベンチャートラベルの感覚になる」「晴天時には、室蘭港内の工場群だけでなく、内浦湾の方まで見え、その景色に感動する」**という声をいただいており、非常に満足度が高い。
- コロナ禍により休止していた時期もあるが、**令和3年度は、11回実施で109名参加、令和4年度は、23回実施で190名参加の実績**がある。
- 白鳥大橋主塔登頂クルーズの宣伝では、各メディアの報道効果を感じている。**特に大きな効果を感じたのは、令和3年度の旅行雑誌「HO」への見開き掲載**で、取材を受けての掲載であったため、費用はかからなかった。令和4年度は、「じゃらん」に依頼し、費用を払い、掲載いただいている。
- **天候や風の影響で中止になった場合の、代わりに提案できるコンテンツが欲しい。**室蘭市では、**ウズラの卵が道内生産量のほぼ100%を占めており、**過去に事業者と協力し、ウズラの卵を使ったプリン作り体験を実施したことがある。また、室蘭市は**鉄のまち**であり、鉄と触れ合う体験や、鉄を熱で柔らかくし、自分の力でねじり、キーホルダーを制作する体験ができる工芸施設等もあるため、そのような**コンテンツの可能性**も探っていきたい。
- 室蘭周辺地域全体の魅力を高め、多くの観光客を地域に呼び込めるよう、関係団体等**と連携することが大切**だと考えている。
- PRを続け、様々な方々に広く知ってもらいたい。具体的なPR活動は、**チラシ配布やメディア訪問、ツアーを組む際の参考にしてもらうための旅行代理店訪問、また、大きな駅やショッピングモール、多くの人が集まるイベント会場等、他団体と協力しながらのPR活動等**である。
- ツアー実施にあたり、運営主体である室蘭観光推進連絡会議が、室蘭開発建設部から主塔の鍵を預かっている。室蘭開発建設部としては非常に大きな決断であったと聞いており、そのおかげで1つのコンテンツとして成長できていると思っている。

北海道型地域構造の保持・形成に関する取組（網走開発建設部）

国土交通省

「サイクルツーリズムの取組」

【地域の現状と課題】

地域の特徴的で魅力的な観光資源を活かした地域活性化

- オホーツクの地域資源（梅雨がなく・日照時間が長い・夏場の冷涼な気候・交通量が少ない・雄大な自然・季節により移り変わる美しい景観・旬の味覚に代表される魅力的な食など）を最大限に活用し、サイクルツーリズムによる滞在型観光を構築し、オホーツク地域でのサイクリングブランド化を進める必要があった。
- サイクリングを基本とした、観光・スポーツ及び異文化などを融合した滞在型アドベンチャーツーリズムを産業化することにより、国内外から多くの観光客を通じ、地域を活性化したい。
- ひがし北海道各地域とも連携した大きな観光ルートを構築し、滞在型ツーリズムにより地域を活性化したい。

快適で安全安心にサイクリングができる環境の整備

- オホーツク地域でのサイクリングブランド化を図るためにも、広大な地域を安心で安全に走行し、楽しんでもらうための環境づくりが必要である。

【取組に至る経緯】

- オホーツク管内では、北見市、網走市、小清水町、大空町、美幌町の２市３町が連携、「サイクルアドベンチャーオホーツク推進協議会」としてオホーツクの資源を最大限に活用した観光コンテンツを開発し、ツアーやイベント等を企画する取り組みを進めていた。
- サイクルアドベンチャーオホーツク推進協議会と連携し、よりよいサイクルツーリズム環境を実現するため「オホーツクルート協議会」を設立し、サイクルツーリズムを促進している。

▼オホーツクサイクリングルート